校内研修の年間計画の工夫⑥

高等学校

特別支援教育に関する内容を年間にわたって実施した取組

活用した資料

校内研修プログラムＰ４

－校内研修プログラムの年間の活用例－

○ 実践の概要

	時 期	内　容	成　果
校内研修プログラム	４月、12月	「教科学年生活会議」における入学生徒の情報共有（中学校からの引継ぎ内容）と個別の指導計画の確認、教育局の特別支援教育スーパーバイザーによる助言	一人一人の生徒の学習、学校生活の状況について全教職員で情報共有を図ることにより、指導の方向性を確認することができた。学級担任のみならず、それぞれの教職員が必要な場面で支援を行うことができている。
	７月	授業づくりと教室環境整備（公開授業「ユニバーサルデザインを意識した分かりやすい授業」、特別支援教育パートナー・ティーチャーによる助言）	ユニバーサルデザインを意識した授業づくりについて公開授業を実施し、特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業による特別支援学校のコーディネーターからの助言により、特別な教育的支援を必要とする生徒の対応について理解が深まった。
校内支援委員会	月１回	特別な教育的支援を必要とする生徒の実態把握と情報交流 個別の指導計画の作成に関わる検討	一人一人のケースについて情報交流を行い、支援の方法を検討することができた。
特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業による特別支援教育に関する研修	年３回	授業参観による生徒観察や、教科指導への助言、学級担任との面談、個別の指導計画の作成への助言、対象生徒の対応について	専門的立場からの助言により、生徒理解と進路指導等について理解を深めることができた。個別の指導計画に基づく指導・支援及び配慮について検証することができた。

本校では、上記のとおり、特別支援教育に関わる研修を年間計画に位置付けて取り組んでいます。

○ 実践の成果

特別支援教育に関する内容を年間にわたって実施したことにより、教職員の特別支援教育に関する意識が高まりました。その結果、中学校から引継ぎを受けた個別の指導計画に基づき、学力不振や不登校等の課題があった生徒にも教職員で共通理解を図り、一貫した支援を行うことができました。また、校内研修を通じた授業改善等を行い、指導や支援の充実を図ることができました。